



人物と花と風景は私にとって永遠のテーマです

たにがわ・やすひろ 洋画家。1957年、徳島県生まれ。1979年、東京藝術大学油画科卒業（大橋賞受賞）。国内外で個展多数。受賞歴多数。

鶴と梅。新春の寿ぎにふさわしい作品。金箔の凹凸が美しい。



谷川泰宏
Yasuhiro Tanigawa

寿ぎの刻を堂々と赫々と

photo: Yasukuni Iida text: Yurie Kimura



吉祥の不二
(45.5 × 45.5cm)

旭日双鶴図
(53.0 × 45.5cm)

Information

高島屋美術部創設110年記念
- 創造へのまなざし - 谷川泰宏展

日本橋店 6階 2月21日(水) → 27日(火)
京都店 6階 3月7日(水) → 13日(火)
大阪店 6階 3月21日(水・祝) → 27日(火)
横浜店 7階 4月11日(水) → 17日(火)
上記各店美術画廊
※最終日は午後4時閉場

谷 川氏の作品には富士山、松竹梅、女神など吉祥とされるモチーフが多い。「おめでたい事柄や昔からの伝承を、自分の世界観で考えることが好きです。実家の画材屋で売っていた、お祝いに贈るような絵を見て育った影響もあるのかもしれないですね。人物と花と風景は私にとって永遠のテーマです」

絵の勉強を始めたのは、将来は外交官か天文学者にと夢を膨らませていた高校1年の時。絵を描くのは好きだが小学生の時は教室に貼り出されたことのなかった長男の泰宏氏に「画材屋の後継としてデッサンくらいは習っておきなさい」と両親の指令が下った。地元徳島市から東京美術学校出身の先生の住む滋賀県大津市へ通うことに。美大志望者に交じって真剣な教えを受けるうちに美大を目指すようになり、東京藝術大学に現役で合格した。大学の恩師の勧めで大学院油画科の修了記念の個展を開いた頃、本格的に画家を

志すようになった。「同級生のほとんどが年上で、技術も知識もかなわなかった。だから人とは比べることなく、自分の絵を描こう、何を言われても自分が描きたいと思うものを描いていこうと決めました」ひとつの技法にとられることなく、キャンバスに油絵具、岩絵具、アクリル絵具、金泥などを併用して描く。デッサンを重ね、内外の資料や物語作家の作品を検証することも欠かさない。「展覧

会のタイトルでもある『創造へのまなざし』というのは、訴えかけてくる作品とそれを創った人の奥にある何かを見つけたということだからだ。「新しいものを創り出すのは苦しいけれど描き続けるしかない。新たな表現や技法を発見できた時には、本当に嬉しいですよ。今は、何も考えないで自然に描けている時が楽しい」アトリエは谷川氏にとって「神聖な場所」。めったに人を通さないアトリエで、絵と向かい合っている。